

キャンパスから

小樽商大
松家仁教授

小樽商科大学は、1911年（明治44年）に開学した前身の小樽高等商業学校の最初の新入生により創設された、伝統ある柔道部を有しています。私が顧問を務め、昨年度はマネージャーを含め4人が所属していました。3月に卒業した前主将に、新型コロナウイルスの感染拡大が部に与えた影響について聞きました。

——コロナ禍で部の活動はこう変わりましたか。

「昨年2月末に出された道独自の緊急事態宣言により、大学から部活動および

柔道部 考え、工夫し活動



体育館入り口に貼られた課外活動中止を告げる張り紙

サークルの活動自粛要請があり、4月には全ての課外活動が禁止されました。7月に再開が認められましたが、武道場の使用は禁じられたまま。秋に武道場が解禁されてからも、使用時間に制約があり、相手と組み合う乱取り稽古は控えるよう指示があったため、四股踏み、腕立て、打ち込みといった一人でもできる基礎練習を増やすなど、練習内容の大幅な変更を余儀なくされました。試合を見据えた実戦的練習ができなくなりました。大規模な大会が中止になったことで、柔道へのモチベーションが低下してしまいました。また、今年2月の間は、再びほぼ全ての課外活動が禁じられていました」

——練習ではどんな点に気をつけましたか。

「まず、一回の練習に対する集中心力を高め、練習の密度を上げました。全日本柔道連盟のガイドラインを参考に、マスクを着けたままできる、あまり激しくない練習内容を自分たちで工夫しました」

——この1年を振り返って感じたことは。

「コロナ禍で、大学の部活動も困難な状況が続いています。しかし今は制約の中で、いかに物事を進めていくのが大事です。異なる意見を調整しながら、自分たちで考え、工夫することの重要性を学ぶ良い機会になったと思っています」